



高齢女性の尿道の出口付近にできることが多い良性の腫瘍「尿道カルンケル」。出血で気付く場合もあるが、小さいものであれば自覚症状がないことも多く、婦人科で偶然指摘されるケースも珍しくないという。症状や治療法について専門医に聞いた。

尿道カルンケル

今回は、尿道カルンケルについて説明します。尿道カルンケルという病名は、あまり聞かれたことがない方もおられるかと思えます。この病気は、閉経後の女性に多く見られます。尿道口部に見られる赤く突出する病変で、通常尿

慢性的な炎症とが重なり発生すると考えられています。症状は無症状のことが多く、ほとんどの場合、病院受診（特に婦人科検診）の際に偶然、尿道口に赤い腫瘍性の突出が発見されることが多いです。その他、血尿、下着

治療は自覚症状がない場合には投薬治療は必要なく、経過観察となることが多いですが、大きな変化がないかについて注意が必要です。また、出血や痛みなどの症状がある場合はステロイド軟こうなどの治療が必要となり、

液の付着があったり、尿道口付近の痛み、違和感などがあつたりした場合は一度、近隣の泌尿器科で診察を受けられてはいかがでしょうか。
（兵庫県医師会、橋本貴彦Ⅱ
芦屋市、はしもとクリニック
泌尿器科院長）

◇第1、3、4日曜に掲載
します。

出血や痛みあれば治療を

道後壁から発生する1、2号と小さな良性腫瘍です。原因についてははっきりしていませんが、閉経後の女性に多いことから、女性ホルモン（エストロゲン）低下が関係しているのではないかと考えられています。女性ホルモン低下による尿道粘膜の萎縮と

や拭いた際の血液付着、痛みといった自覚症状もあり、これを契機に医療機関を受診される場合もあります。鑑別診断としては尿道脱があります。これは全周性に飛び出す特徴があり、尿道カルンケルとは形態的に区別されます。

改善することが多いです。しかし、外用薬使用でも症状が改善しない場合や腫瘍が大きいく排尿困難となる場合には外科的摘除を検討する必要があります。自覚症状は少ないですが、婦人科受診の際に突出する腫瘤を指摘されたり、下着に血